

[令和7年度総括評価表]

(学校名：徳島県立鳴門高等学校定時制)

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
(全体レベル) 仕事と学校との両立を図る生活習慣を身につけさせ、落ち着いた学校生活を土台に、各自の目標に向かって学ぶ生徒を育てる。	評価指標 ①-1 出席率 90 % ①-2 要補講生徒の割合 30 % ①-3 生徒の授業中での充実度 90 % ----- ② アルバイト等従事者 80 % ----- ③-1 学校行事の出席率 90 % ③-1 学校行事の充実度 80 % ----- ④ 交通事故発生件数 0件 ⑤ 人権教育合同授業後のアンケートで、人権に対する知識と意識が高まったと答えた生徒の割合 65 %	評価指標の達成度 ①-112月末までで92.5%だった。(昨年度89.1%) ①-2 要補講生徒22.5%と激減した(昨年度40%) ①-3「とても充実」「まあまあ充実」を合わせて93.3%だった。(昨年度96.0%) ----- ② 「現在従事している」「今はしていないが今年度従事していたことがある」生徒の割合74% ----- ③-1 生徒会主催の学校行事出席率は83% ③-2 学校行事に参加して「大変楽しかった」48%、「楽しかった」42%、合わせて90% ----- ④-1 交通事故は発生しなかった。 ⑤ 「新しく知ったことや驚いたことはありましたか」の質問に対して「はい」が55%、「自分の考えや態度に変化はありましたか」の質問に対して「大きく変わった」15%「少し変わった」52%	総合評価 (評定) B ----- (所見) 今年度は「出席率」が上昇し、「要補講生徒の割合」が半減した。昨年度出席状況の悪かった生徒に丁寧に向き合ったことや、学校行事を工夫して学校生活の魅力を高めたこと、新入生に対するきめ細やかな指導等が功を奏したと言える。	生徒の状況に応じた対処が必要である。その点で定時制の取り組みは評価している。 継続的な指導、声かけが実り、夕刻より登校し、落ち着いた態度で学ぶ雰囲気醸成されてきた。 全国で通信制高校が年々増加し、今年度では高校生の10人に1人が通信制高校の生徒となっている。一方、夜間定時制を選ぶ生徒は減少傾向にある。そのような時代背景の中で、本校定時制課程のあり方もターニングポイントを迎えていると感じられる。 本校定時制課程を選んで入学してきた生徒には、「短い時間ながらも学校へ来て、少ないながらも他者と関わりあって学ぶ姿勢」を大切にほしい。 そのためにも、日中はアルバイトに従事し夕刻から登校するというリズムを大切にしてもらうこと、人数が少ないことの長所を生かして、授業内容がわかりやすく質問しやすい教室を作ること、また少人数だからこそできる温かい行事を実施し、学校へ来る楽しさを創出すること等、次年度も継続して取り組んでいきたい。
	(下位組織レベル) ①欠席者の減少・授業の充実 [教務課] ②アルバイト等への従事の督励 [進路指導課] ③学校行事の充実 [特別活動課] ④交通安全教育の徹底 [生徒指導課] ⑤豊かな人間関係を育む人権教育 [人権教育課] ⑥生活習慣の確立 [厚生環境課]	活動計画の実施状況 ① 各学年の実態に合わせたわかる授業を実践し、出席率が92.5%で昨年より3.4%上昇した。 ② 学期はじめの面談や夏休みの三者面談、また集会の機会において、アルバイトの意義を話し、従事するよう働きかけをした。 ③ 生徒会による新しいアイデアを取り入れ、準備の時間を増やし、生徒と教員が協力して行事を盛り上げられるよう努めた。 また、5年ぶりに修学旅行を実施した。少人数でも実施できるよう検討・工夫をし、次回への足がかりにもなる内容となった。 ----- ④-1 原付や乗用車などの通学使用車両の点検を行い、整備不良車、違法改造車の使用を禁止する。 ④-2 登校時間帯の学校周辺の巡視及び挨拶運動と兼ねて通学車両の確認や安全運転への声かけを実施する。 ----- ⑤ 学期末に人権教育合同授業を実施し、生徒の人権に対する知識と意識のアップデートを図る。 ----- ⑥-1 生活リズムチェックを2ヶ月に1度実施し、各自の生活習慣の偏りや健康課題を認識できるようにし、生活習慣改善の必要性を促す。 ⑥-2 個別の行動変容ワークシートを活用し、生活習慣の改善や具体的な行動が取れるよう、サポートや助言などポジティブな関わりをする。 ----- ⑥-2 個別の行動変容ワークシートは、生徒に実態に対して難易度が高く、活用の定着に課題が残った。	今年度は「出席率」が上昇し、「要補講生徒の割合」が半減した。昨年度出席状況の悪かった生徒に丁寧に向き合ったことや、学校行事を工夫して学校生活の魅力を高めたこと、新入生に対するきめ細やかな指導等が功を奏したと言える。 生徒指導課や厚生環境課を中心に、学校生活の土台となる生活リズムや健康、交通といった部分にアプローチし、人権教育課の合同授業では生徒の心に働きかけをし、様々な角度から生徒たちの落ち着いた生活態度を導き出すことができたと言える。	

<p>(全体レベル) (i) 生徒全体に基礎学力を定着させるとともに、個別指導によって個性や希望に応じた力を身につけさせる。</p> <p>(ii) キャリア教育を推進し、卒業後に自立して生きられる生徒を育てる。</p> <p>(下位組織レベル) ①学習意欲の喚起と基礎学力の定着 [教務課] ②個別指導の実施 資格取得の奨励 [各教科] ③進路情報の収集と生徒への伝達 [進路指導課]</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 教師の授業がわかりやすいという生徒 95%</p> <p>①-2 基礎学力コンペの受験率 75%</p> <p>①-3 基礎学力コンペの全学年平均点 60点</p> <p>②-1 定期考査前補習の出席率 50%</p> <p>②-2 資格試験を受験した生徒 3人</p> <p>②-3 資格試験に合格した生徒 1人</p> <p>③-1 進路ガイダンスを通して「視野が広がった」と答えた生徒の割合 80%</p> <p>③-2 3年生の2学期に進路目標が定まっている生徒の割合 70%</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 授業の中に、中学校段階の内容も取り入れつつ、基礎基本的な学力の底上げを図る。</p> <p>①-2 基礎学力コンペの内容・範囲設定を見直し、意義を説明し、学習意欲を喚起する。</p> <p>②-1 定期考査前補習で、低学力者層に向けた補習を実施する。</p> <p>②-2 県定通教育振興会からの教育活動支援金を活用し、検定試験応援キャンペーンを実施する。</p> <p>②-3 希望者に対して資格取得に対する補習を実施する。</p> <p>③-1 校内進路ガイダンスを外部の方を招いて実施し、生徒の視野を広げ、進路について考える機会を設ける。</p> <p>③-2 ハローワーク、全日制就職課と連携しながら、定時制単独の求人を獲得すべく職場訪問を計画的に実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 「授業がわかりやすい」と答えた生徒は 91.2%だった。</p> <p>①-2 基礎学力コンペの受験率は 86.6%で、昨年の 57.7%から飛躍的に増加。</p> <p>①-3 基礎学力コンペの平均点は 57.7点だった。</p> <p>②-1 出席率は 48%で約半数の生徒が参加。</p> <p>②-2 英語検定のべ3人、日本語検定のべ18人、情報処理検定のべ3人が受験。</p> <p>②-3 英語検定のべ2人、日本語検定のべ16人、英語検定1人と情報処理検定3人は結果待ちである。</p> <p>③-1 進路ガイダンスに参加して視野が「とても広がった」32%「少し広がった」55%合計87%</p> <p>③-2 「はっきり決まっている」「だいたい決まっている」生徒の割合 70%</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 英語・数学・国語の授業を中心に基礎・基本となる読み書き計算に取り組んだ。</p> <p>①-2 年度末に見直した範囲や内容、また基礎学力コンペの意義や目標を年度初めに各教科担当から説明し、授業にも内容を取り入れた。</p> <p>②-1 補習の受講は任意としているが、心配な生徒には直接声をかけて、苦手教科の補習は受講するよう促した。</p> <p>②-2 キャンペーンのチラシを教室掲示し、各担当から声かけをした。受験料の半額補助を行った。</p> <p>②-3 過去問を解答してきた生徒には採点、解説指導を行ったり、情報は実技補習を行った。</p> <p>③-1 6月に校内進路ガイダンスを実施し、さらに11月には講師を招いての進路講演会、2月にはオンラインでの進路ガイダンスを実施した。</p> <p>③-2 県内を中心に生徒の就職希望状況に応じて職場訪問を実施した。</p>	<p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>学校生活の様子が落ち着きを見せるのに比例して、学習への取り組みが前向きな生徒も増加してきた。</p> <p>今年度特筆すべきは、「検定試験応援キャンペーン」の呼びかけに対して、受験の意欲を示した者がこちらの予想を超えたことである。</p> <p>一見無気力に見える生徒たちの中に意欲の芽が隠れており、それを引き出す仕掛けを、今後も様々模索していきたいところである。</p> <p>また、大学受験を志す生徒への個別指導に、少ない教員全員が関わっている。少しでも個別のニーズに応えられるよう、関係していただけの人材を増やす必要がある。</p>	<p>先生方の取り組みに生徒たちが少な人数の教室でも、基礎学力には大きな開きがある。特にながっている。これからもこの一年生では途中からT・Tではなく習熟度別に授業を行った。職員数が少ないため、対応には限りがあるが、クラスの実情に応じて、来年度も実中中学校の校長先生や、鳴門教育大学の先生から、提案をいただき、協力を仰いでいく。</p> <p>検定試験に関しては今年度の状況を踏まえて、来年度は校費と定通振興会からの支援金を併用して、2・3年生に全員受験の機会を設けたいと考えている。特に情報処理検定の取得に関しては、進学する生徒にとっても、就職する生徒にとっても、実際に生きる力になると考えている。</p> <p>少ないながらも多様な進路を希望する生徒が出てきている。常勤の教員が一丸となって対応する必要があると共に、全日制の先生方や地域の協力なども得られるよう、関係作りに努めていきたい。</p>
<p>(全体レベル) 地歴・公民科をはじめとした各教科の授業やホームルーム活動、学校行事等の充実を図り、広い視野を持ち、主体的に発言や行動ができる生徒を育てる。</p> <p>(下位組織レベル) ①自ら考え、自ら判断するための、基本的な事項を理解する。 [地歴公民科] ②生徒が主体性を持って取り組む学校行事の実施 [特別活動課]</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 地歴・公民科の授業評価アンケートで、主権者としての知識と意識が高まったと答えた生徒の割合 65%</p> <p>①-2 主権者教育出前講座後のアンケートで、主権者としての知識と自覚が高まったと答えた生徒の割合 65%</p> <p>①-3 租税教室後のアンケートで、税に対する知識と意識が高まったと答えた生徒の割合 65%</p> <p>①-4 消費者教育出前授業後のアンケートで、消費者としての知識と意識が高まったと答えた生徒の割合 65%</p> <p>② 行事の運営や自主的な活動に参加した生徒の割合 60%</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 地歴・公民科の授業の毎時間、生徒に NEWS を</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 「地歴・公民において主権者としての知識や意識を育てるのに役立ったと思いますか」の質問に対して「とてもそう思う」40%「まあそう思う」54%</p> <p>①-2 「選挙や政治に対する関心は高まりましたか」の質問に対して「とても高まった」7%「少し高まった」67%</p> <p>①-3 「税金の役割について理解できましたか」の質問に対して、「よく理解できた」13%「ある程度理解できた」74%、「税金についてもっと学びたいと思いますか」の質問に対して「はい」45%</p> <p>①-4 「消費者としての意識が高まりましたか」の質問に対して、「とても高まった」54%「少し高まった」38%</p> <p>② 生徒会活動に取り組んだ生徒は 35%</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 毎時間、ニュースを発表させることで、時事</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>授業における日常的な NEWS の共有が、主体的な関心の高まりにつながっていると感じられる。</p> <p>外部からの講師を招いての各講座では、多くの生徒が興味・関心の高まりを示しており、</p>	<p>授業での発表は、生徒の興味関心につながっているものの、次第に形式化し、主体的な情報収集に差が生じている。</p> <p>質疑・対話活動を増やし、思考の深まりを促したい。</p> <p>各種講座で関心の高まりや理解は進むものの、実際の行動に反映されたり、生活の中で結びついたりすることが少ないと見受けられる。</p> <p>模擬投票等の実践活動や、より身近な税の事例を扱う授業などと組み合わせ、実際の生活に生きる力につなげていきたい。</p> <p>また生徒会活動が軌道に乗ってきたところで、今度は全生徒が少しずつでも主体的に</p>

<p>発表させることで、主権者としての知識と意識のアップデートを図る。</p> <p>①-2 主権者教育出前講座を実施し、生徒の主権者としての知識と自覚のアップデートを図る。</p> <p>①-3 租税教室を実施し、生徒の税に対する知識と納税者としての自覚のアップデートを図る。</p> <p>①-4 消費者教育出前授業を実施し、生徒の消費者としての知識と意識のアップデートを図る。</p> <p>③ 行事の運営について生徒会を中心に主体的に関わる生徒が増えるよう促す。</p>	<p>問題に対して主権者として自分の考えを持ち、それを表現できるように実施した。</p> <p>①-2 鳴門教育大学の井上奈穂准教授を招き、全学年に対して出前授業を実施した。</p> <p>①-3 税理士の高畑房生氏を招き、全学年の生徒に対して租税教室を実施した。</p> <p>①-4 消費者コーディネーターの猪上翔太氏を招き、全学年の生徒に対して出前授業を実施した。</p> <p>② 1年生からも新規生徒会役員を選出し、アイデアだしや準備の過程に積極的に関わらせた。また少しずつではあるが、全生徒に役割を与えて行事の作り手の一端を担うよう計画した。</p>	<p>専門家による講座が生徒の主体的な社会参加意識の醸成に寄与したことがうかがえる。</p> <p>生徒会の行事作りも軌道に乗ってきている。</p> <p>生徒が主体的に行動できる場面を増やせるよう、段階的に進めていきたいと考える。</p>	<p>行事作りに参加する場面を作っていきたい。文化祭で各クラスが実情に応じて催し物を考えて実践することを計画していく。</p>
---	---	--	---

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった